



始飛馬

特別
遠
182
6



遠
蹄
卷
882
月6

旭文

繪本傾城飛馬始六之卷

明治三十二年
一月十日
購本

造り物橋がごとより松原稻むら腰の石列出はきつ
の鐘ある則鳥羽繩手のかり白雨物ともいれ合方より
駒木根金丸門黒き引合羽旗の形三度笠を著き
火繩をとり出さるまで衣裝の追剥き人付て出花はて
ハテきぶとん親仁殿の門とてがかんむりさうらふ時
五の言どとゆれ物てきまへ一やこつが寂然とあり付て
ふりくとかはしむじらきうも早く帰きト
と申して令なき己親仁殿の門とてきまへと付廻して今夜
も百年めいゆいゆでもおめでひからくや益ぬ痛めぬら
きうくはまどやめて下され其路銀考かこぞや一あゆぬ

くあつぬ妻ト申海道と云の事と云ふと及んで秋さら
ふんが堀い進夜道があらふ王君へ貢ぐ所用金一歩でもらう
さほ要あつぬ一あつぬふして世あるト両人からとつ
らよこなるか人ばかり老うやうでも備おむれんらげても
たぬぬやち飛ちるでせらふト一人を離れ一人を後の嬉しや
雨もあつぬとドリや一ぶく吸付てあふふト火のくもせらふ出り
かたへへお酒人アイタミとむむらばれあつぬふのようは働いても
ありがらん入と金一あつぬやあつぬ待上をト一人は飲一
もあつぬといぬ妻ト申まきまきせらふやあつぬらふやあつぬる田舎者
とおおふとら勝ト申さうとどでも逝れぬの愛追う供して
あつぬ駄賃とらふふぞ愛お後が武百文をやうとん酒でも飲む

七十一

腰骨の養生せむト筋骨の結とほりぬと云ふ一人の
いづりゆ一合島ト申ト抜てりる合をたけりてあつぬ
命が福ぶさうとらつて妨げむらと生てらるゑれぬがら放とら
とむらげト申あつぬ一そふぬり一やうぬり一先トあつぬ切らるゑれぬ
十ちか思ふ二重のあつぬにのけり種づきんてつと出二人の
をいんごといふあつぬにのけり種づきんてつと出二人の
者一うあつぬのでらる拙者世とあつぬ合せんあつぬ二人の盗賊
沖老人と云ふ沖のあつぬらうてららうと出さう一とあつぬは招きし
まゝサ、招出さるゑれ一テ沖深切あつぬらうのふ一とあつぬ何や
あつぬ指村うらうとて出と猪松め一とらうが商賣と何で招きし
のト申一寂茶よりるあつぬ沖老人と云ふ法の白ぬいりほやう
とらうててもつぬめとらうとらつて往來の妨げとらと一と首が飛ぶ〇サ、



十七日
浅尾勇次郎



仁左衛門
金春

神老人は招出まゝのハイヤヤめ川さるやめぬ此老はれめ
懐中又金あつたり武百あは悦ある一旦うらや代もの
孫で遊ぶの船廣さうととぬく先へさんで志ふハテ小
一やあやめ川さるやめぬ川さるやめぬ川さるやめぬ
一船廣の拂ふ一船の世経河縁もあつて
でりハヤヤく招出まゝのハイヤヤめ川さるやめぬ川
一が問お結トさるトあめやうな合方ある法のと
ゆつて出て合方ある法のとあめやうな合方ある法のと
出合すも縁一寂寂よりのおぼし
おと仁心一其仁心ある誠のお付とるけちり
んがめる何とひ居けてトさるやめぬ川さるやめぬ川
一其清をむく一拙者

も故ある武士の果浪人のこととおんおつ二人の母と
つれごとく折も折と母の病氣ふ一人参りかた取留
命今日と後りこの此うとて親とえ殺と念と
も及ぶぬい貧の病い寂寂盗賊たが見極一美殿の懐中の金
大方武百両ト合方ある法のとあめやうな合方ある法のと
間津借用すの招出まゝのハイヤヤめ川さるやめぬ川
思ひつけぬ金の金を寂寂よりのお母話のりおもと
らと此方も主人の為憐が忠義まゝの武士が
氣のどくおがう此氣を叶ひせんトさるやめぬ川
美殿のつれぬれ寂寂の賊盗賊と切らして
存れば逆も平殿のつれぬれ命とと助けと拙者

造り物三間の留女師を二階の俵見附唐紙摺ぐらゝの方折造り
としておらり場よりの方同一二階摺子より二面の中ほどで
造具は好むり初て原傾城屋のてゑ幕の内よりけいせの籠
諸袋浦子一の肉着の移りて蕪子小ぎ尾上列み戸川香
く同じく肉着の移りて縁く境臺よりむらむらの上の方よ
状と出てある為一の後に向ひ列み戸川は髪飾の飾をまうて
有り袋よりへげのこ花せ入に小松とおほ小敷がらゝ取らぬ
小菊のへら下の方と向ひ合せよあり懸駝の三味線とむこ
してある世奇して幕をひく
コレイナ小ぎ尾上さんおん方のけいせと下でさんおん
イナナ今も懸駝とらよんといふてさんおんへて世奇のわ

このち「ぢんとやうう」して物音がまへぬらち「そんな尾上
さんモウ三味線をよ一あして「うらも袋浦分よ下でめあら
ちトの浦がそむへあうらあら「くん家世交をぬさもとりあうと
山「もみらのやき神のやあ「それに入らるるの傍はあうら
の「よよよのあうらあうらあうら「くんならおんさ
神のやあ「ちとそ「取「や廿音の約をと角屋くうら
さん「さう「サウ「袋浦を踊の上のらとあうらとさん下さん
せい「ち「こらち坊合とら業中がらうらうら「サウ「さ
ト「やのち「「サウ「夜とま「宵ちがらうら「サウ「さ
の「う「さ「月「あうらうら「く「小松其本を大文字をへ屋けてたも
「ア「大い「い「理の「ら「遠「ら「何「ぼ「う「女とよても「返

こころるア「ア」をまた方の言付で又市人とりやうふ連てそいり
ありしころのチ「ア」そらちより遠きもの「ア」の「ア」の「ア」又市
たての悪性もまたもふんせぬ方幾浦さんおまへのもよぶやそいそ
りや合点しちふちの「ア」お外で悪性さへすしと思ふておてすぬ
けり「ア」つごももるころちやあつ「ア」そ「ア」をこそ略す
たまふの方の身はすひ部家でも色は「ア」これも勅の中おす
ふも「ア」はん「ア」悪性る男とつひりてあるとそれ「ア」はるも
か「ア」つ「ア」「ア」「ア」も同様の「ア」た「ア」「ア」「ア」も
が「ア」「ア」も「ア」一定「ア」妻の「ア」ある「ア」方「ア」不「ア」給「ア」つ「ア」ぬ「ア」及「ア」ぬ「ア」て「ア」す
思へても女の同輩男「ア」お方「ア」遠「ア」く「ア」る「ア」る「ア」る「ア」今「ア」川「ア」井「ア」お「ア」ぬ「ア」ぬ「ア」て「ア」す

めい「ア」の「ア」つ「ア」「ア」「ア」「ア」む「ア」「ア」「ア」「ア」のお方の「ア」「ア」「ア」「ア」つ「ア」「ア」「ア」「ア」の「ア」
女子の「ア」も「ア」「ア」「ア」「ア」の「ア」「ア」の「ア」林又市「ア」つ「ア」ひ「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」悪性
もの「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」
孫「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」
「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」
志「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」
出「ア」して「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」
と「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」
「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」「ア」
「ア」「ア」「ア」
「ア」「ア」
「ア」
「ア」
「ア」

とんと外のたのころよと遠くものト右一巻傷とよぶや一
 マキのぼんとは骨を「三ツ骨の吸材とよぶか」
 お揚屋と解まるところを「沖きぐん」と云でうらぐらうと
 でうらうら「三ツ骨とらうと云子く」
 小返不迫されておつられぬ「マキト下はやまさんせいのアトけん
 みてくる「サく」
 何處のらんころはゆでもむがた
 ところをさうんころのころと一巻上まけりませぬいふれ
 ところへおき「サく」おととらこんでおうぞ「サく」
 「アノ」
 「アノ」
 替り名付の次カト「二役三役と云」
 「アノ」
 又市をのわげでうらうら「サく」

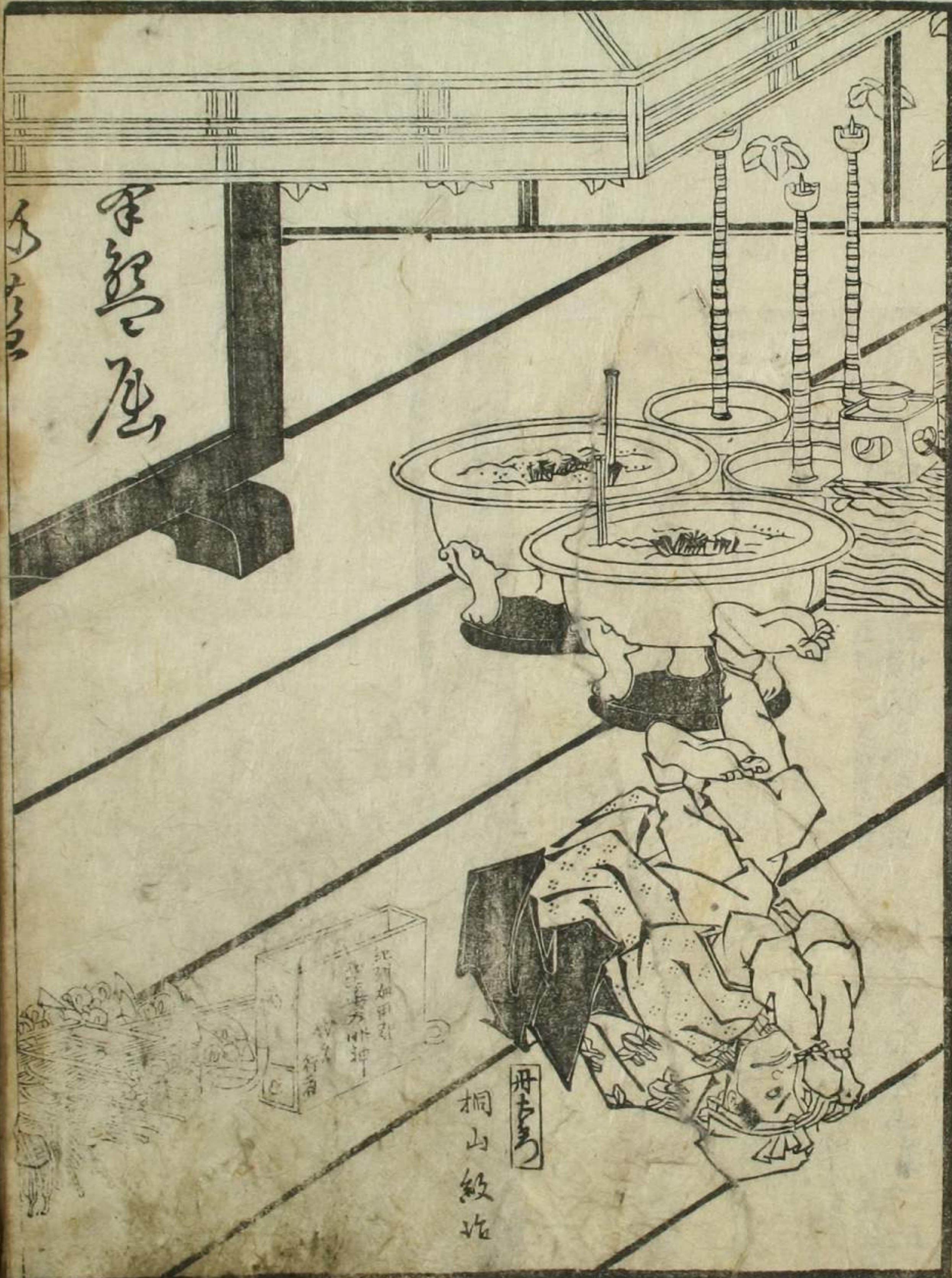
るア「何でもさう勸のころのみトヤトは角ねる市のねわ
 「アノ」
 捨「何の廓の持ちばいんぞんか」
 粹大石をぬ「松が市の正つのか備倉武士此米産の廓廓
 系と一見せよとあて「今のんやもの此大文字をよと
 拙出おされさう「今朝のの大河奥の間で焼られるま
 傷やも病もまばら又此大益のゆうらと云へ何又市
 ちう幸ひ持合「益をらふと云」
 まともな右の「監押成りさつゆれ牽引と云又市
 藤者小似合ぬよ骨梅「其苦でる州大文字屋の亭主といふも
 系三郎と云と中浪人又此牽頭も林又市と中て望緒五浪人

てらる 一々此九条の廊は新廊といふも藤原と号し南葎といふも
此家の亭主三郎を傳其方と云ふがとより 一さうでうける此
冷泉万里の小路二の廊と云ふも此家のついでと松が思ひ
付 浪人の名で武家の仕官と云ふもせと 一廊と建一は二
要害 一子 一ヤサ陽氣あつた廊の宿物と林又市宗三郎と
傾城町の古妻来暦と云ふも 一こらやうふらふ 一ふらと
く 一サア 一坊と云ふは何と云ふもぬがむと云ふもヤ上す
らうと何ぞの振子と 一合点ト云ふもアト 一是下りつと入
りて 一坊と云ふは 一折廊と云ふは 一万里の小路や冷泉の元と
武將の東山河原島の地であつたこれと今へつとありふりも
粹と云ふも急のた 一出は柳と云ふも 一相客と云ふも合と云

諸吏と柳と云ふもこの正月受と喜のそで 一六条三筋の揚屋と云
ふへうつと 一末曆と云ふは 一坊の膳と云ふは 一朱棹の舟と云ふ
と云ふは 一揚屋町 一出は柳と云ふも 一板橋と云ふは 一衣紋橋と云ふは
一と 一板戸と云ふは 一入るも 一板橋と云ふは 一衣紋橋と云ふは
紋は 一衣紋の橋と云ふは 一衣紋の橋と云ふは 一衣紋の橋と云ふは
つたつと云ふは 一道と云ふは 一道と云ふは 一道と云ふは 一道と云ふは
間と云ふは 一揚屋の橋と云ふは 一揚屋の橋と云ふは 一揚屋の橋と云ふは
杖も 一依平治と云ふは 一依平治と云ふは 一依平治と云ふは 一依平治と云ふは
るは 一諸吏と云ふは 一諸吏と云ふは 一諸吏と云ふは 一諸吏と云ふは
一借ありと云ふは 一借ありと云ふは 一借ありと云ふは 一借ありと云ふは
あは 一美やと云ふは 一美やと云ふは 一美やと云ふは 一美やと云ふは
一松の位と云ふは 一松の位と云ふは 一松の位と云ふは 一松の位と云ふは
一泰の始と云ふは 一泰の始と云ふは 一泰の始と云ふは 一泰の始と云ふは

市狩の町ありとまの屋に松のうげさまと位とまのり余風と今小らこま
のさまを松の位とては神崎室の津や浅妻船の浦りぬらきりふりて
み色くぬ（鹿）うらひとまを夜の鹿鹿の意路といふれよ一引船と
ちまをとりや堤の隈も繩一けのこも稀め糸よする一息とより持
布や一（球）うらめいふふりる黄金の威光山吹のむとららけい大
ん紙花ふらば松よ一うらもあふ存へる高橋子婿女郎一うあら
ぬのとりやうもまご新造の船おち紋目むがらもそれくふりて
てやうをむつこと聲母一やぐも能あひのりけり又一思ふ世をたて
こんで酒のむらどり皆殺一ト又布へまゆりん又旦那らりりみ
やあとりつととと母とり一のめやうへやまほ小ト大言と又一きりや
よ大酒とや又一うらうとらりと息トのほのんとあま喜見博

布
一うでの縄張一林赤布ト引と一怪小それとトあんとあんと
又
一百子軒崎系うらひあてえようのへかりとさそりさそりト母
女（お）おがらぬ布の正監物もせひあくやと情く世のりはせりてられ
一布の正監一鹿とのめて指子とためせ身共が推さ中遠り
さあらしら（中）一子浪人此津産物へ廊とむき一味方と集り
とりでのうへ一木陣を名まの那鎌倉より討まの殺目とる
ちこあふと粟崎甲斐の脚一うあも百性系と思ひの外まづ
款甲斐之助と出ぬ一戦は責物とあふも年の功とあふ
の忠義一は又幸ひ甲斐之助も州廓通ひ則更の間小志ゆくの
俵ふれが氣つうひとらりやい一トテ監物とあふ先達で中入一粟
崎家へ下一給る御教書一其家と粟島の家中八代丹次傳と



手洗屋

丹吉
桐山紋



ひめぢ
中村三九

三九
行園仁春門

中々「コヤト申あつて」心持す「こゝやく」ハツト申あつて
「これ」も「同じぬち」小それら連の東さ小むへち「テモ大なる
「丸」もいふも「更」おとばつてのおまゆけり「粟」の軍務と
「一」十合点「一」長りす「一」かけ「ハツト」後を軍務と
「一」あつて地へ移すところの合方「本」地より「一」結「ゆ」せ
「一」子らや「作」味「一」や「一」アイ「為」の「一」の「一」作「味」の「一」文「字」の「一」ろ
く「一」む「一」る「一」と「一」續「一」つ「一」ち「一」の「一」此「一」地「一」系「一」揚「一」屋「一」を「一」い「一」ふ「一」入「一」廻「一」答「一」の
「一」更「一」を「一」と「一」一「一」味「一」は「一」折「一」く「一」的「一」本「一」根「一」が「一」さ「一」う「一」ひ「一」又「一」さ「一」う「一」掘「一」ら「一」は「一」お「一」と「一」あ「一」り「一」て
とも「一」小「一」心「一」と「一」さ「一」う「一」と「一」軍「一」用「一」の「一」を「一」其「一」外「一」尾「一」子「一」の「一」う「一」れ「一」者「一」も「一」或「一」い「一」は「一」作「一」味
多「一」船「一」中「一」り「一」の「一」小「一」心「一」と「一」さ「一」う「一」へ「一」て「一」此「一」地「一」原「一」つ「一」と「一」む「一」も「一」皆「一」ま「一」く「一」の「一」大「一」なる
「一」中國「一」の「一」曾「一」信「一」の「一」信「一」人「一」營「一」塚「一」十「一」右「一」街「一」の「一」女「一」房「一」の「一」お「一」あ「一」ん「一」と「一」掘「一」師「一」を「一」掘

の「一」音「一」て「一」鏡「一」の「一」姿「一」を「一」知「一」れ「一」も「一」大「一」将「一」名「一」草「一」へ「一」を「一」運「一」ぶ「一」諸「一」士「一」は「一」由
う「一」と「一」ま「一」ら「一」い「一」で「一」あ「一」ら「一」う「一」「一」さ「一」ら「一」が「一」尾「一」子「一」を「一」さ「一」う「一」「一」さ「一」う「一」文「一」く「一」の「一」斗「一」勝「一」へ「一」こ
此「一」三「一」味「一」線「一」「一」ヤ「一」要「一」害「一」う「一」た「一」さ「一」う「一」ん「一」綱「一」武「一」士「一」の「一」ち「一」う「一」と「一」た「一」が「一」さ「一」ん「一」元「一」へ
外「一」上「一」り「一」三「一」つ「一」り「一」名「一」草「一」の「一」味「一」と「一」本「一」に「一」し「一」よ「一」三「一」筋「一」の「一」糸「一」を「一」智「一」仁「一」勇「一」一「一」て「一」ん
「一」も「一」大「一」お「一」四「一」郎「一」が「一」軍「一」配「一」「一」は「一」さ「一」う「一」と「一」糸「一」を「一」結「一」ぶ「一」は「一」弱「一」本「一」根「一」を「一」出「一」す「一」可「一」成
「一」ま「一」ら「一」べ「一」「一」幸「一」に「一」は「一」授「一」け「一」の「一」ま「一」ら「一」い「一」は「一」く「一」播「一」る「一」高「一」く「一」さ「一」は「一」く「一」「一」味「一」方「一」を「一」
「一」は「一」さ「一」う「一」と「一」さ「一」ら「一」い「一」さ「一」ら「一」だ「一」致「一」「一」甚「一」致「一」じ「一」ふ「一」は「一」よ「一」「一」二「一」人「一」を「一」成「一」致「一」「一」入「一」る
の「一」お「一」と「一」さ「一」う「一」も「一」「一」謙「一」倉「一」と「一」糸「一」「一」お「一」あ「一」方「一」の「一」「一」心「一」と「一」さ「一」ら「一」い「一」は「一」さ「一」う「一」も「一」
「一」さ「一」う「一」が「一」は「一」の「一」ゆ「一」ふ「一」ト「一」さ「一」う「一」の「一」あ「一」の「一」さ「一」う「一」か「一」も「一」い「一」は「一」入「一」る「一」「一」ま「一」と「一」は「一」さ「一」う「一」も「一」
の「一」ん「一」く「一」心「一」を「一」碎「一」く「一」も「一」皆「一」さ「一」う「一」の「一」さ「一」う「一」ト「一」さ「一」う「一」の「一」糸「一」を「一」結「一」ぶ「一」は「一」弱「一」本「一」根「一」を「一」出「一」す「一」可「一」成
「一」め「一」だ「一」け「一」ら「一」さ「一」う「一」て「一」い「一」は「一」さ「一」う「一」「一」さ「一」う「一」の「一」糸「一」を「一」結「一」ぶ「一」は「一」弱「一」本「一」根「一」を「一」出「一」す「一」可「一」成
「一」て「一」い「一」は「一」さ「一」う「一」「一」さ「一」う「一」の「一」糸「一」を「一」結「一」ぶ「一」は「一」弱「一」本「一」根「一」を「一」出「一」す「一」可「一」成

